

■学生による近代建築冊子のPR活動について 北九州市立大学地域創生学群 片岡 寛之

1. はじめに

北九州市は、2020年および2021年の東アジア文化都市に選定されたことをうけて、北九州市内の魅力的な建築物や景観等を海外からの来賓・来訪者などに広くPRし、同時にシビックプライドの醸成を図るため、2021年3月に、写真メインの冊子「ARCHITECTURE OF KITAKYUSHU -時代で建築をめぐる-」(以降、紹介冊子)を発行しました。(図1)

同冊子では、1600年代以降につくられた北九州市内の魅力ある建築(計82件)や夜景スポット(7箇所)が写真を中心に紹介されています。



図1) 紹介冊子の表紙

同冊子の発行後、北九州市は同冊子およびそこで紹介されている建築物や夜景スポットに関する各種PR活動を展開しており、その1つがWEBメディアによるコラムの連載です。これは、昨年度末に実施された北九州市による委託事業で、具体的には、(株)北九州家守舎が受託し、同社の運営する地域情報発信型WEBメディア「real local 北九州」(図2)にて、「北九州の建築を巡る」という特集ページを設け、同冊子に掲載された建築物の中からピックアップした建築物に関するコラムを5回シリーズで連載(表1)するというものでした。

さらに、今年度は同冊子を効果的にPRするための関連企画として、当該建築物およびその周辺エリアのまちあるきイベントをいくつかのターゲット層別により実施することになりました。その1つが、若者向けのまちあるきイベントの実施で、その企画運営を筆者の研究室にて担うこととなりました。今回はその様子について紹介させていただこうと思います。



図2) real local 北九州トップページ画像

表1)「北九州の建築を巡る」連載内容

連載回	テーマと紹介された建築物
第1回	「建築好きが注目するまち・北九州市」 ※連載開始：2021年3月1日
第2回	「個性派建築のミクスチャーな風景」 ※連載開始：2021年3月8日 <ul style="list-style-type: none"> ・小倉城（小倉北区） ・北九州メディアドーム（小倉北区） ・リバーウォーク北九州（小倉北区） ・TOTO ミュージアム（小倉北区） ・ミクニワールドスタジアム北九州（小倉北区） ・門司港駅（門司区） ・旧大阪商船（門司区） ・三宜楼（門司区）
第3回	「レトロ×ポストモダンの魅力」 ※連載開始：2021年3月15日 <ul style="list-style-type: none"> ・旧百三十銀行八幡支店（八幡東区） ・石炭会館（若松区） ・上野ビル（若松区） ・北九州市立図書館・文学館（小倉北区） ・西日本総合展示場（小倉北区） ・北九州国際会議場（小倉北区）
第4回	「マニア必見！名橋の造形美」 ※連載開始：2021年3月22日 <ul style="list-style-type: none"> ・九州鉄道茶屋町橋梁（八幡東区） ・春吉の眼鏡橋（小倉南区） ・南河内橋（八幡東区） ・若戸大橋（若松区） ・紫川に架かる橋たち（小倉北区）
第5回	「美しき木造建築の世界」 ※連載開始：2021年3月29日 <ul style="list-style-type: none"> ・広寿山福聚寺（小倉北区） ・大興善寺・山門（小倉南区） ・廣旗八幡宮・拜殿・本殿（八幡西区） ・旧安川邸・大座敷（戸畑区） ・西日本工業倶楽部洋館（戸畑区）

2. まちあるきイベントの実施にむけて

(1) 企画内容の検討

上述のような経緯により、北九州家守舎と私の研究室メンバーの協働で、20代前後の若者を対象とした若松旧市街地でのまちあるきイベントを企画運営することになったので、関係者で集まってキックオフミーティングを行いました。そこで、北九州家守舎の担当者から今回のイベントで求められていることをはじめとした、企画内容の検討にあたって必要な事項について説明を受けたうえで、ミーティング参加メンバー間での意見交換を経て、基本的な方向性を固めました。

その結果、今回のイベントでは、紹介冊子に掲載されている若松旧市街地の建築物を案内しつつ、その周辺エリアで若者が興味を持ちそうな魅力的なお店やスポットなどを巡るといようなまちあるきを企画することになりました。そして、研究室メンバーが参加者募集を含めた当日の運営全般を担い、北九州家守舎がその内容に対するアドバイスおよび北九州市との調整を担うという役割分担で準備を進めることになりました。

それをうけ、まずは企画のテーマに関するアイデア出しを行い、あわせて対象エリアやスケジュール等について研究室メンバーで素案を検討しました。その後、北九州家守舎の担当者との間で打ち合わせを行い、企画のテーマを「エモーショナル」「ローファイ」にすること、対象エリアを3つに分けてエリア別に調査を行うことなどを決め、イベントの実施日を9月24日（金）と設定し、準備を進めていました。

しかし、福岡県内における緊急事態宣言が延長されたことをうけ、一般向けまちあるきイベントの実施は見合わせることになりました。その代わりに、企画テーマはそのままとして、当該建築物周辺エリアのフィールドワークを通じた魅力発掘を行い、その内容を全3回の特集記事としてWEBメディアで発信することをゴールとして活動することになりました。

(2) 実施体制および調査対象エリアについて

特集記事の作成にあたり、本活動に参加可能な研究室メンバーを3つのグループに分け、それぞれが担当する掲載建築物（表2）および調査対象エリアを設定しました。

表2) 3つのエリアで紹介する建築物

1	旧古河鋳業若松ビル(28)、上野海運ビル(29)
2	料亭金鍋(33)、若松石炭会館(30)
3	朽木ビル(32)、若戸大橋(48)

※ () 内の数字は図2の番号に対応



図2) 建築物の位置

(紹介冊子電子版より切り抜いた画像)

3. フィールドワークの様子

(1) 対象建築物周辺エリアの調査

緊急事態宣言下における北九州市内の感染者数の動向をふまえ、当初の予定から何度か延期せざるを得ない状況が続きましたが、1回目のフィールドワークをようやく2021年9月12日(木)に実施することができました。調査にあたっては、事前に参加可能なゼミメンバー11名を3グループに分け、各グループが表2の各エリアを担当することとし、それぞれ事前にネット中心での情報収集をしたうえで調査に向かうこととしました。

調査当日は、戸畑駅に集合し、若戸渡船で若松に移動、そこから各グループに分かれて調査を実施しました。調査の様子は以下の通りです。

写真1) 館長さんへのインタビューの様子



写真2) 気になるお店を見つけてお店の方から話を伺う様子



写真3) 事前リサーチでお目当てにしていたお店に入る様子



(2) 若戸大橋の見学

1回目のフィールドワークで概ね必要な情報が集まったため、2回目は戸畑区まちづくり整備課さんによるアテンドで若戸大橋の見学ツアーを実施することになりました。当日は、まず、若松側の橋脚下に集合して、橋脚内の展示スペースにて担当者から若戸大橋の概要に関する説明を受けました。次に、同スペースで、若戸大橋の建造に関するドキュメンタリー映像(約30分)を視聴して、若戸大橋建造の背景や技術的側面、構造等について学びました。その後は、点検通路での見学時の注意事項について説明を受け、参加者全員が安全器具を装着し、橋脚内部から橋梁下の点検通路入り口に移動しました。そして最後に、洞海湾上の橋梁中央部まで点検通路を歩き、折り返して元の場所に戻ったところで、見学終了となりました。見学の様子は以下の通りです。

※ 若戸大橋の展示室は職員による誘導・案内が必要なため、常時開放はしていないものの、事前申し込みのあった近隣小学校の社会科見学や技術者・大学生の研修等で活用しているそうです。(北九州市HPより抜粋)

写真4) 市職員さんによる説明を受ける様子

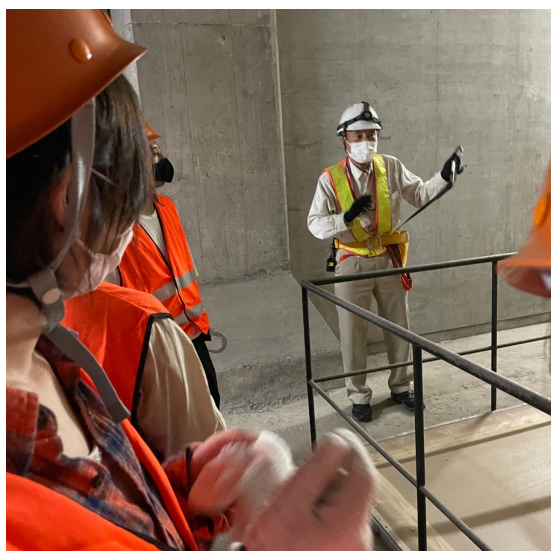


写真5) 橋脚内から点検通路入り口に向かう様子

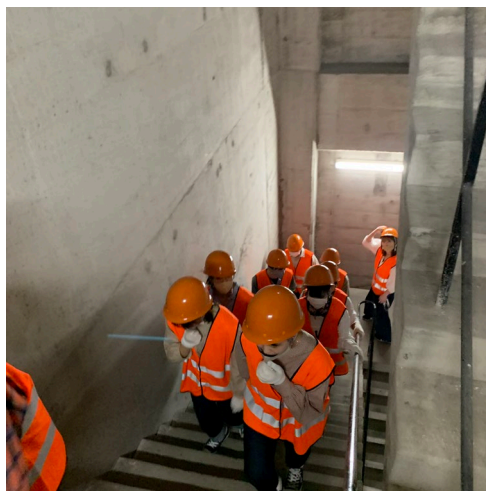


写真6) 恐る恐る点検通路を歩く様子



4. 特集記事の公開

現在、執筆担当学生がライターさんによるチェックを受けながら、各エリアの記事を作成しているところです。1本目の公開予定が11月1日で、その後は、1週間おきに3本目までを順次公開予定ですので、是非「real local 北九州」をご覧ください。

参考

- 1) 北九州市「ARCHITECTURE OF KITAKYUSHU-時代で建築をめぐる-」
2021年3月発行
- 2) real local 北九州WEBサイト
(<https://www.reallocal.jp/kitakyusyu/>)